

福井市との包括連携事業 プロジェクトマッピングにチャレンジ！ ～ もりのわフェスタ2019 ～

生活科学学科 生活デザイン専攻 教授 内山 秀樹

9月29日(日)、第3回もりのわフェスタに本学生活デザイン専攻1、2回生が参加しました。

1回生29名は、子供達を対象にした遊びの広場「もりのわワンダーランド」を担当。5グループに分かれて授業の一環として、「それいけブーメラン」、「作って!かくして!お宝探し!」、「巨大もりのわカルタ〜2019」、「ぺたぺた合戦」、「もりのわタウン〜色をなくした町」の5つの企画を夏休みにも準備して当日に臨みました。

教室で企画していた時に比べ屋外の空間が思ったより広いことに戸惑ったり、開店前の準備の最中に小雨がふり、段ボールがぬれて塔の設営ができないなどのアクシデントもありましたが、それぞれに工夫を凝らした企画に訪れたこども達の歓声が鳴り響き、学生も手応えを感じていたようです。

フェスタの夜の部では、懸案事項であったマイアークア

給水塔壁面を活用した映像表現として、地元デザイナーさん2人と本専攻卒研究生3人がプロジェクトマッピングにチャレンジしました。

5月下旬から福井大学明石研究室での勉強会、本学での企画検討会を重ね、『水の尊』を上映しました。その昔、九頭竜川で暴れる龍を巫女が弓矢で封じ込めました。その後、森田では平和な日々が続き人々は安らかな日々を送っていましたが、千年たった今、封じ込めた龍が給水塔の中で蘇りました。その龍を討つために現代の巫女が立ち上がりました。巫女役の学生が弓を射る実像と映像が連動し、来場者の応援が巫女のパワーとしてチャージされる内容で、子供達の熱狂的な声援をうけて弓矢が放たれ、再び龍が封じ込められました。

この企画に関わった学生たちは、プロから仕事の厳しさややりがいを大いに学ぶ機会となったようです。



クライマックスの龍退治シーン プロジェクトマッピング



大はしゃぎのこどもたち「巨大もりのわカルタ」



現代に蘇った龍の退治に必死で声援を送るこどもたち